

中国雲南省の観光開発と地理的要因

金国花

キーワード：中国雲南省、地理的要因、観光旅行業、問題点

1. はじめに

観光業とは、観光に関連する業種の総称をいう。旅行業（旅行代理店等）、宿泊業（観光ホテル等）、飲食業、交通業（航空会社、バス会社等）、製造業（名産品、お土産製造等）など極めて多岐にわたる。様々な長所を有するため観光業を主要産業として位置づけている国も多く、またほとんどの国や地域で観光業の成長が図られている。例えば、フランスには年間7,600万人（2003年）の観光客が訪れ、地元の各業界に莫大な金額を落とす。このため、経済上極めて重要な業種の一つとなっており、政府は観光局を設置し、世界各国の出先事務所を通じて自国の観光や産業のPRを進めている。中国も現在観光旅行業を積極的に発展している。観光産業は新興の産業で、農業、製造業、小売業などの伝統的産業とは異なる特長を有している。（1）エネルギー消費が低い、（2）環境負荷が低く、直接的な環境汚染を起こしにくい、（3）付加価値の創造能力が高い、（4）関係地域に多くの就職、雇用機会を提供する。これらの特長は、観光産業が数多くの異業種の複合からなる総合産業であることに起因する。したがって、観光産業の発展は国民経済に直結する。国際的な観光交流の拡大は、国際相互理解を増進するとともに、地域経済の活性化を促進し、世界の平和と経済発展に大きく寄与するものである。

2. 雲南省の概要

雲南省の総面積約39万km²は中国の全国土面積960万km²の4.1%、総人口4,550万人（2008年）は中国全体約13億5千万人の3.4%を占める。

1999年、世界園芸博覧会が昆明（雲南省の省都）で成功裡に開催され、それ以後、雲南省は中国の全国および海外にもよく知られるようになった。この年、雲南省への海外からの観光客数は約100万人で、これによる外貨収入は約3億ドルにもなった。そのうち70%以上が日本と韓国からの観光客である。国内観光客数は約3,600万人で、それによる収入は180億元であった。1999年、雲南省の観光旅行業の総収入は200億元を突破し、雲南省のGDP1,804億元の約8%を占めて、観光旅行業の飛躍的な発展をもたらした。

雲南省の観光旅行業の総収入は1990年、GDP452億元の1.3%だったものが、1998年GDP1,794億元の7.6%、1999年GDP1,804億元の8%までになった。最近の2008年には雲南省の観光旅行業総収入は663億3,000万元でGDP5,700億元の11%、2009年には810億7,300万元でGDP6,168億元の13.1%に達した。2015年には1,300億元を目指している（雲南省統計局）。なお、中国全国の観光旅行業の総収入は2009年、GDP33兆5,353億元のほぼ4.3%を占めている。

雲南省が中国全国の中でも観光旅行業に特化していること、および近年のその伸張が明らかである。雲南省の自然環境と社会条件は次のように顕著な特性にまとめることができる。

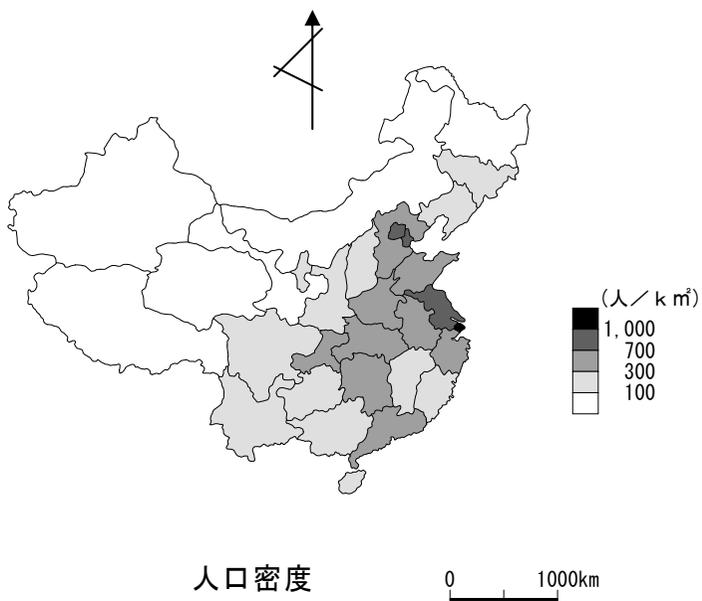


図1 中国各省の人口密度
 出所：中国統計年鑑(2010)より作成(MANDARA 使用)

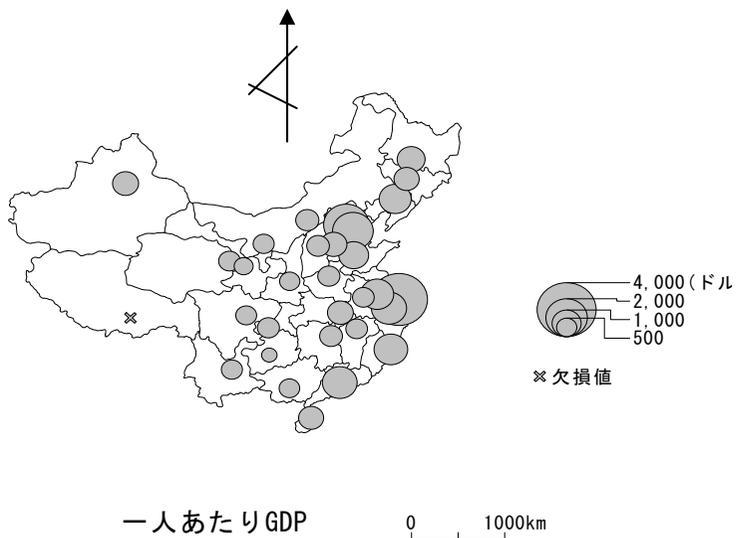


図2 中国各省の一人あたりGDP
 出所：中国統計年鑑(2010)より作成(MANDARA 使用)

(1) 奇異性

雲南省の多くの景観には奇異性があり、中国の他地域の同類景観と比べて非常に特殊である。ある景観は世界自然奇観になって、観光資源としての優位をもつ。たとえば、雲に聳える玉竜雪山は雲南省の西北部にあり、標高 5,596m の一番高い峰の付近には四季を問わず現世氷河を見ることができる。この氷河は世界で緯度が最も低いところにある。

また、雲南省には沢山の川があり、イラワジジャン（伊洛瓦底江）、ヌジャン（怒江）、ランチャンジャン（瀾滄江）、ジンシャジャン（金沙江）、ウェンジャン（元江）、ナンパンジャン（南盤江）の六大水系がある。イラワジジャンとヌジャンはインド洋に注ぎ、その他の四つの川は太平洋に流れ込んでいる。ひとつの省に六つもの大きな水系があり、それぞれ分かれて二つの大洋に注いでいるのは世界でも珍しい。

雲南省の温泉の総数は 200 個以上もあり、中国で一番多く、温泉が省内に広く分布していることも特徴である。温泉の水温はその多くが 30 度から 55 度でちょうどいい湯加減である。

(2) 多民族性

雲南省には中国 56 個民族中の 51 個民族が住んでいて、人口 5,000 人を超える少数民族が 25 個ある。そのうち 16 個の少数民族では特有の生産と生活の様式を長期間続けている（表 9、表 10）。その結果、多様な民族文化が形成され、独特の風俗習慣、祝祭、服装、建築物などは魅力的な観光資源になっている。

(3) 国境性

雲南省の南隣はミャンマー、ラオス、ベトナムに接し、北回帰線が雲南省の南部を横切る（図 3）。全省の少数民族の 16 個民族が国境地域に住んでいて、昼には国外に出かけ、夜には国内に帰るような状況にあり、自ずから国境交流を促進している。このような雲南省の地域性が東南アジアその地理的なつながりを優勢にし、雲南省は国境観光の最適地になっている。

(4) 季節性

雲南省は中国の西南部に位置していて、その西北は「世界の屋根」と呼ばれるチベット高原に連なり、南部は広大な海洋の影響を受けてモンスーン気候が明らかである。冬は乾燥した大陸モンスーン、夏は湿潤な海洋モンスーンが卓越する。それに複雑な高原地形が加わり、雲南省には特徴的な高原モンスーン気候が形成された。この高原モンスーン気候条件は雲南省の広い地域にわたって非常に支配的である。

雲南省の大部分は海拔 2,000m 以上であり、四季は一年中春のようで、冬暖かく夏涼しい。とくに雲南省の省都、昆明はこんな気候が典型的で「春城」とも呼ばれる。

同時に、雲南省の気候には地域ごとに多様性がある。南部のシーサンパンナ（西双版纳）から北部のヂチン（迪庆）にかけて熱帯、温帯、寒帯の気候が連担し、比較的にとまいった地域内でこれだけ気候が変化するのは中国、いや世界でもまれに見る現象である。これらの地域特性が雲南省を有名な観光地にさせている。

3. 雲南省の観光地

(1) 昆明

昆明は、雲貴高原の中部に位置し、三方、山に囲まれた風光明媚な雲南省の省都である。昆明市の総面積は 21,688 km²、人口は約 578 万人(2000 年)である。標高 1,890m の盆地にある昆明は、一年を通して気候が穏やかで、一年中緑の絶えることなく「春城」と呼ばれ親しまれている。

昆明市内から約 3km 離れている所に昆明国際空港がある。日本の関西空港への直行便は週 2 便（中国

東方航空)、東京の羽田空港への直行便はまだない。そのほか中国の北京、上海、広州などを經由しての就航はさまざまである。

(2) 石林

石林は、カルスト地形で有名な天下第一の奇岩森林で、昆明から南東に 100km ほど離れた所にある。広大なエリアに 50 以上の景勝地が点在している。毎年、旧暦 6 月 24 日には周辺に住むイ(彝)族の人たちがここに集まって火把節(火把节)という有名な火祭りが行なわれる。2007 年 6 月、ユネスコの世界自然遺産に登録された。

(3) 大理

大理市は、雲南省の西部に位置する大理ペー(白)族自治州の州都である。総面積は 1,458 km²で、そのうち洱海(じかい)の面積が 17%を占め、また、山岳地帯なので、平地は 15%に過ぎない。大理市の人口は約 45 万人(2000 年)で、そのうちペー族が 65%を占める。大理はペー族の居住エリアで、彼らの伝

統文化が深く残っている。大理市内の南西に大理空港がある。昆明国際空港までは 30 分ぐらいかかり、週 28 便がある。大理は大理石のもとになった地名で、その産地としてよく知られている。

(4) 麗江

麗江ナシ(納西)族自治州の州都、麗江市は雲南省の北西部、チベット高原と雲貴高原の境界に位置する都市である。昆明から約 600km、大理から約 200km の距離にある。麗江市の総面積は 21,219 km²だが、そのうち平地はわずか 5%に過ぎない。地域内には玉龍雪山、ロウジュンサン(老君山)の二大山脈と、ランチャンジャン(瀾滄江)、ジンシャジャン(金沙江)の二大水系がある。

麗江古城は麗江市の中心にあり、悠久の歴史に溢れ、文化の豊かな名城で、中国では珍しく、完璧に保存されている少数民族の古城である。1997 年 12 月、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

(5) シーサンパンナ(西双版纳)

シーサンパンナタイ(傣)族自治州は雲南省の南部に位置し、北回帰線より南にある。ラオス、ミャンマーと国境を接し、国境線の長さは 1,069km もある。自治州の総面積は 19,700 km²、人口は約 80 万人(2000 年)、タイ族 1/3、漢族 1/3、その他の民族 1/3 という構成になっている。

(6) 三江併流

雲南三江併流の自然景観はチベット高原南部を横断する山脈の河谷に位置して、ヌジャン(怒江)、ランチャンジャン(瀾滄江)、ジンシャジャン(金沙江)および流域内の山脈で構成されている。総面積は約 4 万 km²で、東アジア、南アジア、チベット高原の三大地域の接点にある、世界でも珍しい高山と河谷の地形である。同時に、この地域は 16 個の民族が集まり住んでいる所で、世界でめったにない多民族、多言語、多種の宗教信仰と風俗習慣が併存する地域でもある。雲南三江併流の自然景観も 2003 年 7 月、ユネスコの世界自然遺産に登録された。

(7) トウチョウ(騰冲)

雲南省の西の端、ミャンマーとの国境近くにある町でかつてはミャンマー・インドへの陸路の要衝だった。火山帯にあつて温泉が出るという条件を生かし、雲南省政府が第 3 の観光地域にしようとインフラ整備など重点的に投資している。2009 年空港が開港、2010 年に北京、上海からの直行便が就航完了している。現在世紀金源集団が中心となって巨大な温泉ゴルフリゾートシティを開発中である。



写真1 大理のペー（白）族



写真2 石林

4. 雲南省の観光旅行業の問題点

(1) 観光地、観光資源の管理が行き届かない。

雲南省は中国、世界でも自然の観光資源が豊富である。とくに石林、三江併流、麗江はユネスコに登録されている世界遺産なので、最も完璧な管理が必要である。観光資源の中にはなかなか管理が行き届かない所もある。

(2) 観光資源の開発不足

雲南省にはまだ知られていない観光資源が沢山ある。未開発の観光地や観光資源を開発すれば、新しい観光コースができるだけでなく、将来の観光コースも充実して、より多くの観光客を惹き付ける。

(3) 伝統文化が商業化し過ぎている。

雲南省は観光自然の資源のほか、多くの少数民族のさまざまな民俗、風俗などの伝統文化が重要な観光資源である。近年はそれらの伝統文化が商業化し過ぎる傾向がある。目前の利益追求よりも長い目で見た観光開発のために伝統文化を商業化し過ぎることなく、適切に保護しなければならない。

(4) 報告宣伝の不足

雲南省の観光地観光資源について全般的に明らかに広告宣伝工作がよくできていない。本研究で実施したアンケート調査によれば、雲南省の観光地に対して、元々から知っていた観光客は少ないという結果であった。

観光地、観光資源への管理が行き届かないから、観光地は元々の素晴らしい観光資源を失って、観光発展に悪影響を与える。雲南省の観光にはいろいろな問題が存在するが、根本の原因は資金不足である。資金不足で観光業に問題が起り、問題が起るから観光業の発展を妨げて、資金不足になる。資金不足と観光業の問題はいわゆる悪性循環になっている。

5. 終りに

現在雲南省の観光旅行業は非常に盛んでいるけど、やはり上のような問題点が存在する。衛生問題、

資金不足、自然破壊、宣伝工作などである。これらの問題点を解決して、雲南省の観光旅行をもっと発展させる必要がある。そのためには国家及び雲南省政府と地元住民みんなの協力が必要である。

引用・参考文献

- 秋岡家栄 (1983) 『雲南に生きる人びと—稲のふるさとをゆく』 三省堂, 267p.
- 川野和子(1997) 『中国 魅惑の雲南』 新評論, 330p.
- 孔健(1990) 『秘境・西南シルクロード—日本文化のルーツを探る—』 学生社, 209p.
- 「地球の歩き方」編集室 (2005) 『地球の歩き方—中国 2005～2006 年版』 改定第 19 版, ダイヤモンド・ビック社, 720p.
- 中国人民美術出版社 (1982) 『中国カラー文庫 9 雲南の旅』 美乃美, 171p.
- 陳舜臣・尾崎秀樹監修 (1993) 『世界歴史と文化—中国』 新潮社, 489p.
- 時田慎也(1998) 『中国・雲南地方』 日経BP 社, 220p.
- 陶 冶 (2010) 「観光開発にみる民族文化の表象」 <http://ci.nii.ac.jp/>
- 福山陽子(2001) 『雲南の旅いろいろ事始め』 凱風社, 190p.
- 四谷晃 (2007) 「ベトナム観光産業の発展と現状」 <http://ci.nii.ac.jp/>
- 尹 欣 (2010) 『雲南省統計レポート (2000～2010)』 雲南大学出版社, 169p.
- 雲南省統計局 (2010) 『中国国家旅行局の統計 (2010)』 雲南大学出版社, 245p.
- 雲南省ホームページ <http://www.yninfo.com/>
- ユネスコホームページ <http://www.unesco.jp/>

The Development of Tourism and Geographical Factors of Yunnan Province in China

JIN Guohua

Key Words : Yunnan province in China , Geographical Factors , Tourism , Existing problems